



アルミ缶回収で車いす寄贈

～白一小青空児童会～



白石第一小学校の青空児童会では、アルミ缶の回収など環境美化活動を積極的に行っています。

回収で得られた収益金を地域の医療・福祉にも役立てようと、このほど車いす2台を購入し、11月12日、公立刈田総合病院に寄贈しました。

さいかわキッズオリンピック開催

10月19日、斎川小学校体育館で幼児向け運動会「さいかわキッズオリンピック」が開催されました。



斎川在住の就学前の幼児と家族など約120名が参加したこの催し。かけっこや絵あわせ、玉入れなど、家族みんなで楽しく汗を流しました。

白石城でフリーマーケット



白石城に賑わいをと市民有志が企画して、10月18日、「白石城おも城いマーケット」と銘打ったフリーマーケットが開催されました。

会場の白石城本丸には、衣類や雑貨、小物類などのお店が所狭しと並び、ソーラン踊りなどの出し物も披露されて、大にぎわいの日でした。

白石あけぼの園分場が開所

～斎川凍豆腐の伝統を引き継いで～

昨年11月、斎川農業生産組合から凍豆腐製造を引き継いだ白石あけぼの園分場「こすすの家」が正式に認可を受け、11月1日、盛大に開所式が行われました。今後、グループホームで生活する皆さんなどが生豆腐製造や草刈りにも取り組みます。



やまぶき園で口腔衛生指導実習

10月21日、福祉作業所やまぶき園の利用者の方々に、仙台市の宮城高等歯科衛生士学院の実習生13名が口腔衛生指導の実習を行いました。

実習生は、白石歯科医師会の協力で行った。実習生は、白石歯科医師会の協力で行った。実習生は、白石歯科医師会の協力で行った。



越河小でマリンコンサート



10月16日、越河小学校でプロの演奏家4人を招き、青少年健全育成マリンコンサートが開かれました。軽快な生演奏披露に加え、タンバリンやマラカスなど多彩な打楽器の紹介、そして最後は、子どもたちも打楽器を手にとって一緒に演奏するなど、貴重な体験を楽しみました。

旧高甚跡地活用ワークショップ



10月17日、市が取得予定の旧高甚跡地の活用方法について、広く市民の意見を伺うワークショップがふれあいプラザで開催されました。参加した約50人の皆さんは、市の素案や事前に市民から募った利用案をもとに、賑わいと中心市街地活性化に向けて活発に意見を出し合いました。

第34回白石市民文化祭



10月31日から11月2日にかけて、中央公民館と碧水園を会場に、市民文化祭が盛大に開催されました。

展示会場には絵画や書道、華道に陶芸などの力作が一堂に展示され、芸能会場では日ごろの鍛錬を感じさせる素晴らしい舞台が続きました。

姉妹都市締結20周年祝賀会開催



10月31日、登別市民訪問団を迎え、姉妹都市締結20周年祝賀会がパレスリゾート白石蔵王で盛大に催されました。祝賀会では、登別市の開拓記念碑と白石の世良修蔵墓碑の拓本が交換されて祖先の縁を再確認し、各団体同士の新たな交流が提案されるなど、さらなる交流を誓いました。

いつまでもお元気で

大森しんさんに特別敬老祝金



▲大森しんさん（蔵王山頂にて）

市では、11月9日に100歳を迎えられた大森しんさん（不澄ヶ池）の長寿を祝い、特別敬老祝金100万円を贈りました。

明治36年に市内で誕生した大森さんは、製糸所を営む大森家に嫁ぎ、家業と家事を一筋に支えられました。

大森さんは、100歳の記念にと、大型写真パネル5枚を市に寄付してくださいました。この写真は、総合福祉センターやふれあいプラザなど5ヵ所に飾ってありますので、ぜひご覧ください。

患者へのサービス向上を目指して 障害者体験講習会

10月25日、公立刈田総合病院で障害者体験講習会が開催されました。

当日は、刈田総合病院の職員や看護師など約20名が参加し、障害者と同じ動作になれるような器具を付けて階段を降りたり、自動販売機でジュースを買ってみるといった体験をしました。



参加者は、「視界が失われるのが一番きつかった」「お年寄りの方に細かい字を書かせるのが大変だと分かりました」など、非常に貴重な体験をされたようでした。

十月十二日、秋田県岩城町で、03真田サミット in 岩城 が開

かれた。岩城町と真田氏のゆかりは、真田幸村の五女御田の方が、亀田藩二代岩城宣隆に嫁ぎ、その間に生まれた重隆が、三代を継いだことによる。

びつくりしたのは、岩城町の町おこしである。人口6、500人の町でありながら、天鷲郷整備事業として、史跡保存伝承の里・天鷲村、亀田

城美術館、天鷲遊園、天鷲ワイン場等の見事な天鷲郷の整備が行われ、城下町の伝統文化に根ざしたソフト事業を、しっかりと支えている。

まず、鵬雲斎の設計による茶室で、



川井市長のせせらぎトーク

「真田サミット」

裏千家今日庵業林阿部宗正先生のご指導により、薄茶を喫する。最初からあらがらでよいとのこと。もてなしに甘えて、白石市長と自己紹介したら「見事な茶室を大胆にお使いのこと、徳力さんから伺っております」とお褒めいただいた。

復元された天鷲村内の武家屋敷で、町民茶会に参加した。手に取った茶碗の鹿背が見事である。朝日焼だと思っ、随行のY君に銘を確かめてくれと言ったところ、亭主に聞こえたのだろうか。「先代松林豊斎の作です。町の仕事を自由に使わせてもらっています」とのこと。真田の血を引くまちづくりに敬意を表したい。

ところでサミットで、上田市の母袋創一

市長が、白石にとっては聞き捨てならない発言をした。先日、登別市の時代村に招かれた。登別軍から真田軍への雪合戦のチャレンジを受けたからである。母袋市長は、上田軍の総帥として乗り込んだ。彼が言うには、真田の軍略が功を奏し、我が上田軍は二勝〇敗であったと、大威張りである。

私は同じ壇上で聞いていて、これは一言なかるべからずと思った。母袋市長は、時代村という言い方をしたが、あれは、当然のこと伊達時代村である。そのメインとなっているのは、片倉家の屋敷である。つまり、伊達の先陣として勇名をはせた片倉軍を、真田軍が打ち破ったという意味に取れるではないか。

待ちかねていた私の順番が来た。「先ほど、上田の市長が登別で二連勝したということをご自慢に話をしたが、分家に行って勝ったからといって手柄額をされては困る。たぶん片倉の血を引いた精強な登別市民は、雪合戦など歯牙にもかけず、弱兵のみがお遊びで相手をしたのだろう」横目で見

たら、上田の市長が万歳をして、聴衆にアピールしている。

そこで聞き直った。「上田市に、申し込みたい。近日中に全軍を率いて、我が白石城において頂きたい。雪合戦だろうと、その他の戦いであろうと、我が白石勢は片倉軍略を用いて、上田勢を完膚なきまでに打ち破ってお目にかけよう。殊に、最新鋭の娘子軍に、お相手させたいものである。元来、白石は女性の力が強いところであるが、それは、伊達政宗を英傑に育て、その補佐役の片倉小十郎景綱を薫陶した、片倉喜多以来の伝統であるから」

実は何年前か、上田市との少年スポーツ交流で、野球は互角だったが、剣道で惨敗した。それはオクビにも出さない。上田市長は交代しているの、母袋さんは知らないだろうと思つたら、とんだ伏兵がいた。上田市長随行の課長が、サミットが終わった後寄つて来て、「白石とのスポーツ交流、復活したいですね！」